

⑧ 荒廃茶園をレモンに転換してブランド化を推進 【波乗りレモン部会（牧之原市）】

■ 活用した事業

「デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）（内閣府）」を活用して、「波乗りレモン」の生産を拡大

■ 経営の概況

茶価の低迷等により、牧之原市内でも荒廃茶園が増加している。牧之原地域でもレモンの栽培ができないか検討を開始して、「波乗りレモン部会」を設立した。牧之原市はサーファーに人気の地域であり、「牧之原地域のおいしいレモンを波にのせて届けていきたい」という思いから名付けられた。

レモンの収穫時期は10月から1月であり、茶の繁忙期と重ならないことから、茶農家にも取り組みやすい品目となっている。

■ 取組内容

静岡県の特産品になることを目指し、部会名に市の名前を入れず事業を進めた結果、現在では市内外に取組が広がり、部会員数56名、栽培面積11haとなっている。栽培品種は大半が「リスボン」と「ユーレカ」で、「マイヤー」「スイート」「璃の香」なども栽培している。農研機構の専門家を招いた研修会も実施した。

販路は付加価値をつけるため、補助金を活用して県外イベントに出店したり、県内外の販売店への販売を実施。また、クラウドファンディング実施にあたり、市内の菓子メーカーとのコラボを展開した。さらに県内菓子メーカーが「波乗りレモンの生レモンケーキ」を発売し、「波乗りレモン」のブランド力向上に一役買っている。

加えて、「オーガニックまきのはらプロジェクト」が令和7年1月にJクレジット制度のプロジェクトに認証を受けたことを踏まえ、伐採・抜根した茶樹をバイオ炭にしてカーボンクレジットを販売し、生産者の所得の向上を目指す。



「波乗りレモン」のロゴデザイン



「波乗りレモン」を使用したお菓子の販売



レモンのブランド化を目指し、農研機構の専門家を招いた研修会